普通煉瓦
刻印 無し
手抜き成形
不明
汐留遺跡（港区）

Tokyo Metropolitan Archaeological Center

たまのよこやま

普通煉瓦
刻印［上敷免製］
機械成形
日本煉瓦
道合遺跡
／赤羽上ノ台遺跡
（北区）

同じに見えて
多種多様！

普通煉瓦
刻印（輪違）＋［イ］
機械成形
金町製瓦
道合遺跡
／赤羽上ノ台遺跡
（北区）

普通煉瓦
刻印（桜／蕾）
機械成形
不明（東京集治監？）
旗本花房家屋敷跡
遺跡（港区）

普通煉瓦
刻印（桜複弁）＋［三］
手抜き成形
東京集治監
道合遺跡
／赤羽上ノ台遺跡
（北区）

令和7年度企画展示
「土の中のトーキョー」深掘り特集
その1 煉瓦の作られた場所を科学の眼で探る……2

遺跡だより 新宿区 尾張徳川家下屋敷跡……4
あの遺跡は現在!? ヌーヴェル赤羽台 北区 道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡……5
調査員の研究ノート 調査研究員 島﨑 瑛美……6
東京都埋蔵文化財センター 7～9月のイベント……8

夏休みの
楽しいイベント
盛りだくさん！

東京都埋蔵文化財センター報 141

令和７年度 企画展示

「土の中のトーキョー」深掘り特集

カァーチャン コレハ何？

その１：煉瓦の作られた場所を科学の眼で探る

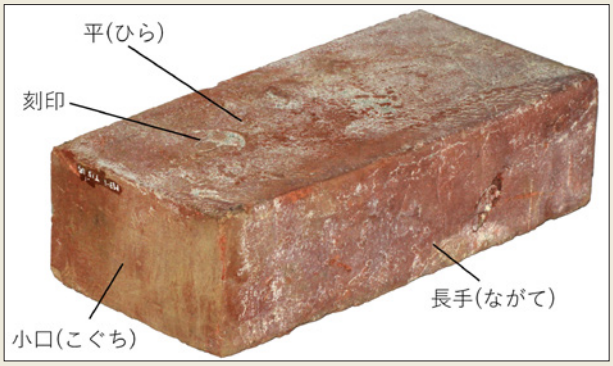
1872年[明治5]の銀座大火以降、旧来の木造に代わって、煉瓦が多くの重要建築・構造物に用いられるようになりました。例えば、近代建築で初めて国宝に指定された旧東宮御所・迎賓館赤坂離宮(1909年[明治42]竣工)は、一見すると壮大な石造殿に見えますが、内部は鉄骨煉瓦造の建物です。同様に、重要文化財に指定されている1914年[大正3]竣工のJR東京駅丸ノ内本屋も鉄骨煉瓦造(外壁は化粧煉瓦)です。遺跡からも、数多くの煉瓦構造物が見つかっています。

上：国宝旧東宮御所　下：重要文化財東京駅丸ノ内本屋

さて、当時、こうした建物や構造物を造る際の大きなネックの一つは、重く嵩張る煉瓦を如何に大量に調達するかでしょう。使う側からすれば、極力、近場から用立てしたかったはず。こうした需要に応えるべく、近代トーキョーおよび周辺地域では盛んに煉瓦が生産されていました。冒頭で挙げた二つの建物は、主に渋沢栄一が創業した日本煉瓦(現埼玉県深谷市)の煉瓦が用いられたとされますが、他にも囚人達に生産させていた小菅の東京集治監や江戸川沿岸で操業していた金町製瓦など、城東地区を中心に大小取り交ぜ数多くの煉瓦工場が操業していました。ですから、その生産および流通の解明は、トーキョーの産業史・流通史、ひいては日本の近代土木建築史を語る上でも重要な課題であることは展示でもご案内しました。

しかし、ここで問題になるのが、出土煉瓦個々の生産地の突き止め方です。なにしろ、形はただの直方体、大きさも規格がありますから（時期によって若干の差はありますが）、どこで作ってもほぼ同じ。残念ながら、煉瓦は、その生産場所の差を示す明確な特徴に乏しい出土品なのです。

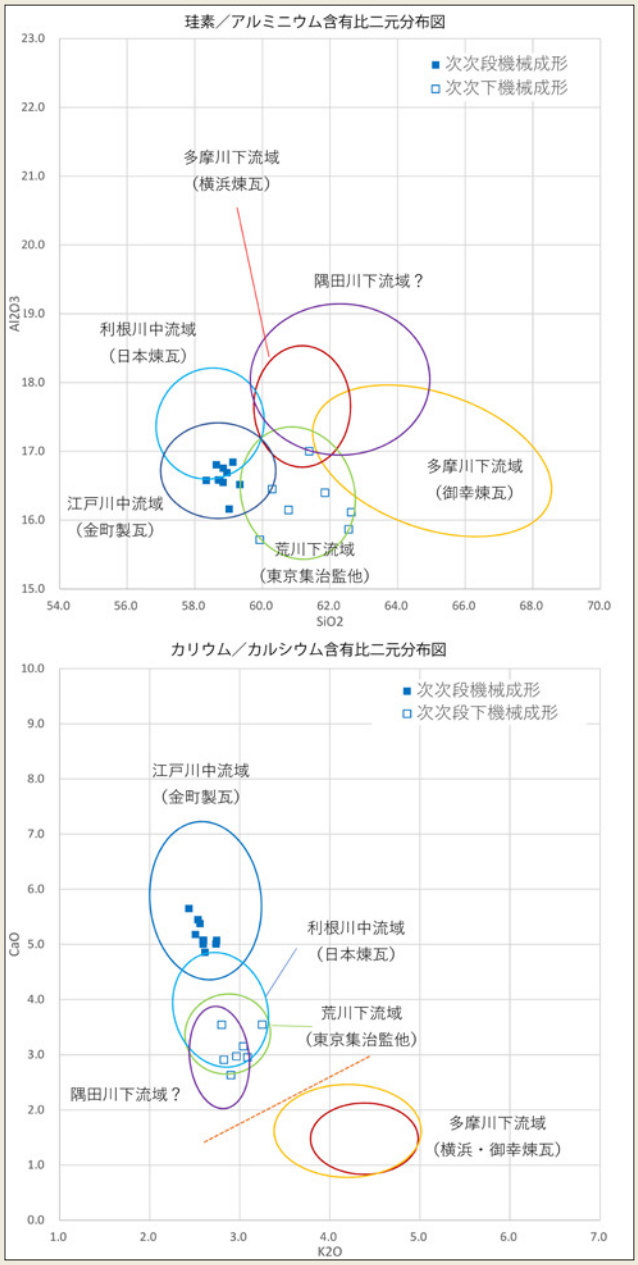
これまで最も活用されてきた手掛かりは、平の面に捺された「刻印」です。楕円に〔上敷免製〕や〔日煉〕の文字が入った刻印は日本煉瓦製、単弁・複弁・蕾など各種桜の刻印は東京集治監製、二つの円を重複させた輪違の刻印は金町製瓦と言われており、確かに有力な根拠となります。



「上敷免製」　桜(複弁)＋「三」　輪違＋「イ」

ただ、刻印には、多くの問題点もあります。まず、生産者を特定できていない刻印がまだ多いこと。施工時の加工や破損によって刻印が失われてしまった場合や目地のモルタルが付着して見えない場合も判断できません。そして、最も大きな問題が、(プレス成型を除いて)すべての煉瓦に捺されている訳ではないという点です。生産者によっても多寡があって、場合によっては、まったく刻印が見つからない場合すらあります。ですから、限られた刻印のみから解釈を導いた場合、実態とは異なったイメージになる危険があるのです。

そこで、他に生産地を調べる方法はないかと思案の結果、元素分析を実施することにしました。煉瓦の素材となる粘土は、採掘地域の地質によって、その元素組成も異なります。煉瓦に用いる粘土は通常の器とは桁違(けたちが)いの量が必要ですし、もともと煉瓦工場は製品の運搬を考えて水辺に近い立地のことが多いので、地元の粘土を用いたならば、河川流域毎の特徴がつかめるかもしれないと考え、生産者の判明している刻印を頼りに分析を進めたところ、果たして予想通りの結果が得られたのです。一例として、二つの元素存在比分布図をご覧にいれます。

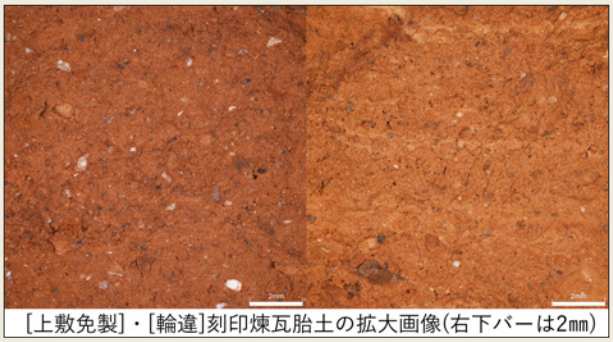


各流域の分布範囲を楕円で示してありますが、今回、ここに元浅草(もとあさくさ)遺跡で検出された東京女子高等師範学校の講堂基礎構築煉瓦の分析値(一部)もプロットしてみました。■は上から三段目の煉瓦、□は四段目以下の煉瓦です。どちらも機械成形で刻印もなく、作られたのが同じ場所かどうかも肉眼では判りませんでしたが、グラフでは■が金町製瓦のある江戸川流域に、□は東京集治監などのある荒川流域の範囲に見事に収まったではありませんか！

元浅草遺跡 35号遺構(近代講堂跡基礎)

この違いについて、報告書作成段階では基礎の上下で使い分けていた可能性を考えていたのですが、今回改めて検討した結果、南側の拡張に合わせ、最上段から3段目までを基礎全体で作り直していた可能性が高いことがわかりました。すなわち、当初は江戸川流域から煉瓦を仕入れていたものが、拡張段階では荒川周辺の業者に代わったということになります。今後、その理由や背景について、さらに研究を進める必要が出てきました。

近年導入したエネルギー分散型蛍光X線分析装置によって、以前は1点あたり数時間掛かった分析作業を10分前後に短縮することができました。これが、今回のような調査の追い風になっていることは確かです。ただ、それでも出土したすべての煉瓦を対象とするのは現実的ではありません。将来は、肉眼観察による正確な判断基準を導きだしたいと考えています。もちろん、その比較研究の際にも、刻印や分析結果に基づいた正確な地域分類は欠かせないでしょう。今後の研究の進展にご期待ください。　　(長佐古　真也)



日本煉瓦・金町製瓦の煉瓦胎土の比較

遺跡だより 144

新宿区　尾張徳川家下屋敷跡

所在地　：　新宿区戸山三丁目
調査期間：　2024 年 9 月～
調査面積：　3,475㎡

尾張徳川家下屋敷跡（新宿区№85 遺跡）は、新宿区戸山三丁目に所在します。本遺跡は、武蔵野台地東端部に位置し、北は神田川、南は目黒川に挟まれた淀橋台に立地します。遺跡周辺は、カニ川などの神田川支流の小河川が開析した谷が入り組む起伏に富んだ複雑な地形を呈しています。本調査地点は、カニ川左岸の段丘面上、標高約 29m の地点に位置します。

本遺跡は、旧石器時代から江戸時代、そして近代にかけての複合遺跡で、江戸時代に尾張名古屋藩徳川家の下屋敷が造営された地点にあたります。屋敷の一部を除いた約 56 万㎡が、遺跡の範囲となっています。広大な下屋敷の敷地の 8 割以上は、起伏に富む自然地形を生かした池泉回遊式庭園として整備され、11 代将軍家斉をはじめとする各藩の要人が訪れていました。現在、庭園跡地は、都立戸山公園として利用されています。これまでに 12 次にわたる発掘調査が実施され、今回は 13 次調査として実施しています。調査地点は、下屋敷の敷地西端に位置し、過去の調査成果から屋敷境の堀が見つかることが予想されました。

現在、調査地点からは、屋敷境の堀が 2 条検出されています。これは、尾張徳川家が行った用地の取得による拡張の度に、作り替えられていることを示しています（写真 1、2）。屋敷境の堀は、非常に深く掘られており立川ローム X 層まで達しています。これは、後の時代に削平を受けている現在の地表面からでも 2m 以上の深さを測ります。また、断面形も逆台形状を呈し、壁面が直線状に成形されていることから、外側からの侵入が困難な構造であったことが伺えます。出土した遺物は、屋敷境の堀を埋め戻した土の中に含まれていたものが、ほとんどで、底面からはあまり見つかっていません（写真 3）。堀の中にゴミなどが溜まらないように定期的に掃除を行い、丁寧に管理していたと考えられます。

明治時代以後の下屋敷は、明治 5 年（1872）、政府に接収されて大日本帝国陸軍の駐屯地となり、翌年には陸軍兵学寮戸山出張所（後の陸軍戸山学校）が置かれました。今回の調査地点には、明治 44 年（1911）から近衛騎兵連隊が置かれていました。調査では、この時期に作られたと考えられる大型の土坑が検出されました。深さは約 4m を測り、南北方向に調査範囲外へ続くことから、長径 50m 以上に及ぶ大きさだと推測されます。底面や覆土からは、銃弾や馬の蹄につける蹄鉄、明治時代から大正時代にかけてのガラス瓶、陶磁器などが出土しています。この土坑の用途は、現段階では不明ですが、今後の文献調査と併せて明らかにしていきたいと思います。　（堀　恭介）

写真 1　屋敷境の堀 1（北から撮影）

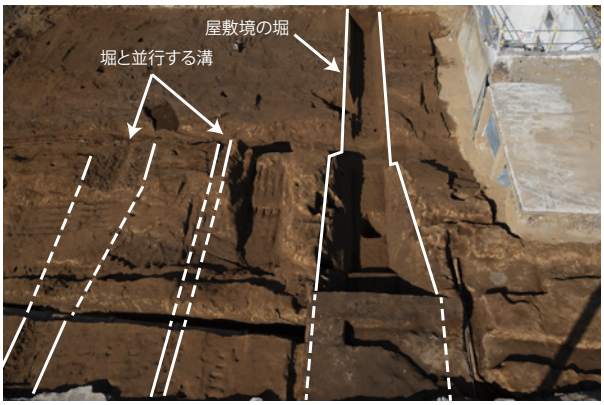


写真 2　屋敷境の堀 2（南から撮影）

写真 3　屋敷境の堀から出土した遺物（南から撮影）

あの遺跡は現在（いま）！？　Vol.25

―　ヌーヴェル赤羽台　北区道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡　―

このコーナーでは、東京都埋蔵文化財センターが発掘調査した遺跡の現在の様子をご紹介します。

JR赤羽駅（あかばね）の西口から赤羽並木通りを西へ少し進むと、赤羽台トンネルが見えてきます。その脇にある急な階段を上ったところが、今回ご紹介する道合（みちあい）遺跡・赤羽上ノ台（あかばねうえのだい）遺跡です。旧赤羽台団地の建て替えに伴い、当センターでは複数次にわたる発掘調査を行いました。

発掘調査では、旧石器時代から近世に至るまで、様々な遺構や遺物が確認されました。遺跡がある旧赤羽団地一帯は、大正年間に旧日本陸軍被服本廠（きゅうにほんりくぐんひふくほんしょう）の本部や工場があった場所で、被服本廠に関する建物跡や日常生活用品なども数多く見つかりました。

そのうちのひとつが、被服本廠で使用されていた集団食器です。食器のふちに二重圏線がめぐるのが特徴で、〇に五芒星の記号や、陸軍被服本廠といった施設名が書かれています。器の底面に、製作した場所や業者を示す生産者別標示記号（いわゆる「統制番号」）がある器もありました。また、被服本廠の食堂で使われていた食券も出土しています。

令和元（2019）年、スターハウスを含む旧赤羽団地の４つの住棟が国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。団地が登録されるのは初めての例です。このエリアは「URまちとくらしのミュージアム」として整備され、新たに開館したミュージアム棟では、復元した団地の住戸を見学することができます。レトロな団地のすまいを「体感」してみてはいかがでしょうか。　（小西　絵美）

◆調査成果が掲載された報告書
2024『北区道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第381集　東京都埋蔵文化財センター

写真１　旧日本陸軍被服本廠の本部・工場だった場所は、旧赤羽団地を経て、新たな集合住宅へと生まれ変わった。
写真２　写真後ろは43号棟（スターハウス）、手前のベンチには、旧日本陸軍被服本廠の建物の煉瓦基礎が再利用されている。

写真３　写真左は集団食器で、記号のほかに「被購食堂」（被服本廠購買部食堂の略称）「陸軍被服本廠」と書かれている。写真右は、「夕並辨」「陸軍被服本廠購買会」「うどん」などと書かれた食券。令和７年度企画展示「土の中のトーキョー　近代考古学事始」でも展示中。
（いずれも北区教育委員会所蔵資料）

調査員の研究ノート

こんな研究しています

当センターの調査研究員が
行っている さまざまな研究を
やさしく紹介するコーナーです。

#7　調査研究員　島﨑 瑛美

弥生時代の集落を探る

私は現在、東京都北区に所在する「南橋遺跡」を中心に、弥生時代後期～古墳時代初頭（約 2,000 ～ 1,650 年前）の集落について研究しています。

南橋遺跡は十条台遺跡群を構成する遺跡のひとつで、弥生時代後期～古墳時代初頭の大規模な集落が確認されています（図 1）。私は数年前にこの遺跡の調査に従事したことをきっかけに、当該期の集落の成立から衰退までの様相を復元することを試みました。次項より、詳細を記します。

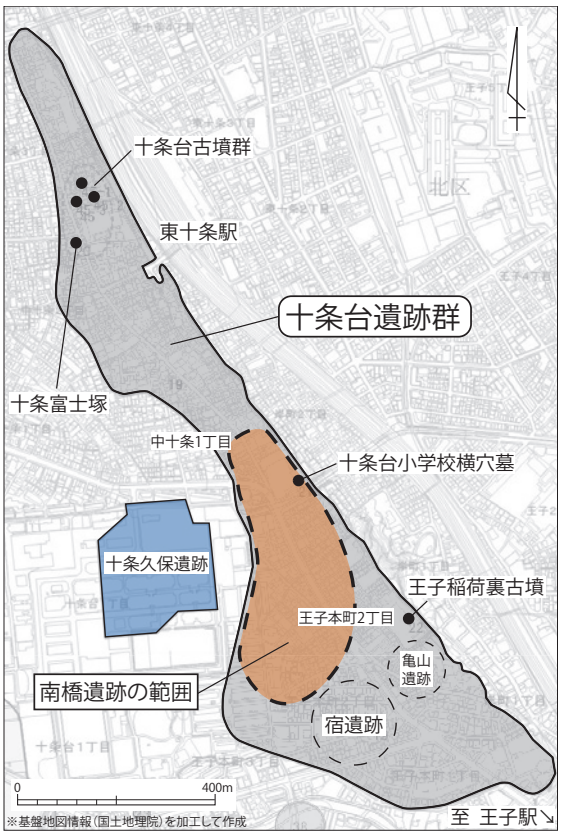


図 1　南橋遺跡の位置

土器の観察

遺跡を調査すると、竪穴住居跡などの遺構が検出されます。遺構は同じ時代でも時期差が見られ、遺構の詳細な時期を捉えることで、集落の盛衰を考えることができます。遺構の時期の検討には、遺構そのものの観察のほか、遺物が重要です。遺構には様々な遺物が残されていますが、多く出土するのは土器です。土器は、形や文様などの特徴や変化が把握しやすいため、土器の特徴や変化から、その土器が用いられた時期と、その土器が出土した遺構の時期が推定できます。

今回は、南橋遺跡と、南橋遺跡と一体と考えられる西側に隣接する十条久保遺跡で検出された、竪穴住居跡や井戸などの遺構から出土した土器を観察しました。①壺（貯蔵用）、②甕（煮沸用）、③高坏・器台・椀（マツリ用）の 3 つの器種に分類し、特徴や変化ごとに分け、古い時期から新しい時期への移り変わりを示しました。その結果、5 段階の変化が認められたため、古い時期から、Ⅰ～Ⅴ期としました（図 2）。また、土器の観察では、Ⅳ・Ⅴ期の資料が少なく、Ⅰ～Ⅲ期の資料が豊富であることが分かりました。当該期の中でも、前半から中頃に人々の活動が活発であったことが想定され、このような土器様相は、次項の集落の様相とも重なります。

集落の様相

図 2 の土器の移り変わりを元に、南橋遺跡と十条久保遺跡で検出された遺構を、Ⅰ～Ⅴ期に分けました（図 3）。そこから、集落の成立から衰退までの様相を復元すると、次のとおりになります。

Ⅰ期は集落の「成立期」で、台地の広範囲にわたって、小型、中型の住居跡が分布しています。Ⅱ期は集落の「発展期」で、大型住居が成立します。大型住居を中心に集落の密度が高まり、規模が最も広くなります。Ⅲ期は集落の「衰退開始期」で、大型住居を中心とした集落のまとまりは見られますが、遺構数が減少し、集落の勢力が衰え始めます。Ⅳ期は集落の「衰退期」で、大型住居を中心としていることに変化はありませんが、Ⅲ期よりも遺構数が減少し、掘立柱建物跡と井戸は検出されていません。徐々に集落が衰退していく様子が窺えます。Ⅴ期は竪穴住居跡が 1 軒検出されているのみのため、詳細は不明ですが、土器の器種組成に変化が認められ、集落に大きな転機が生じた時期だと想定できます。

以上が、南橋遺跡の集落の成立から衰退までの様相です。極端な規模の拡縮や遺構数の増減は見ら

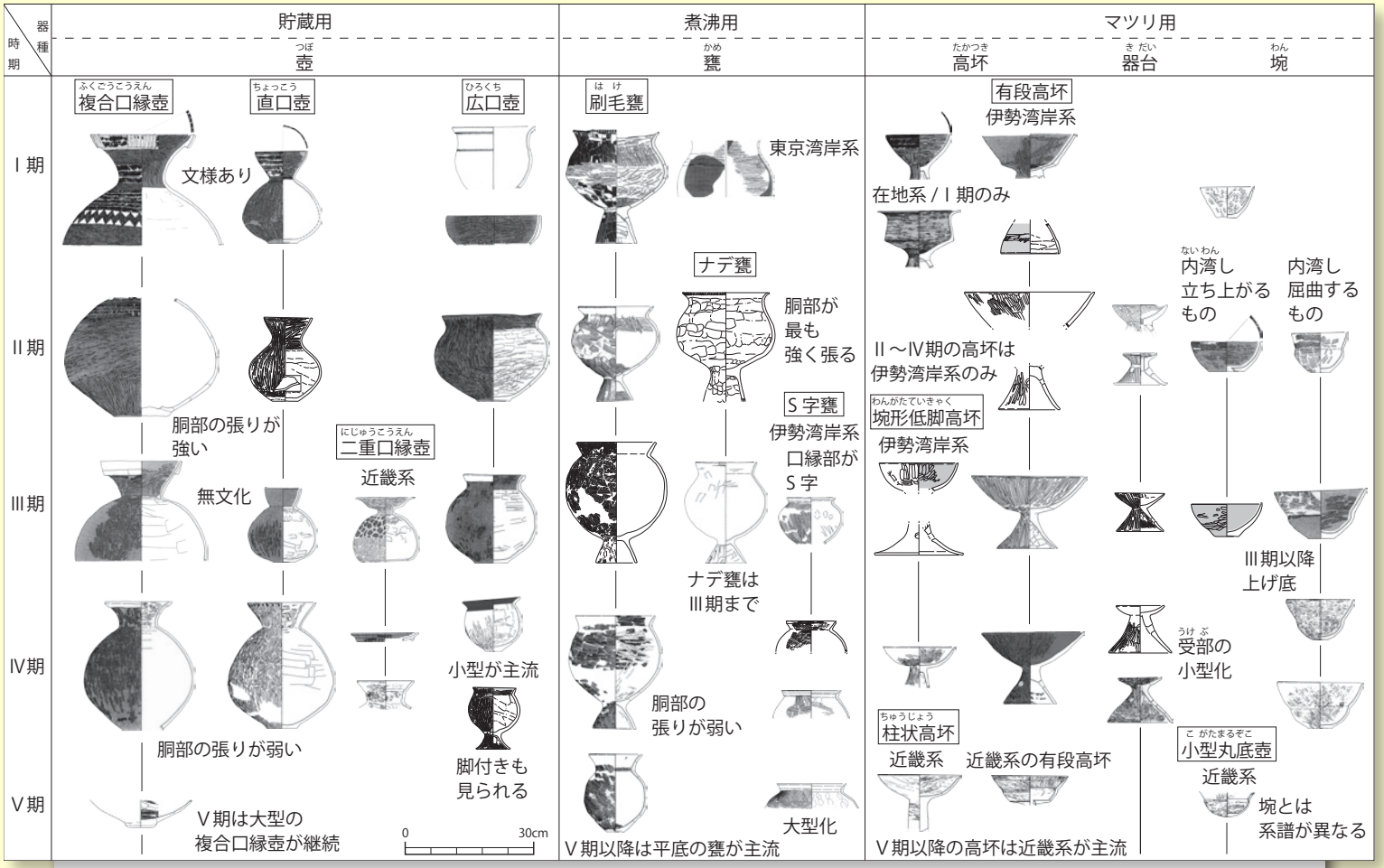


図２　南橋遺跡の土器の移り変わり（抜粋）

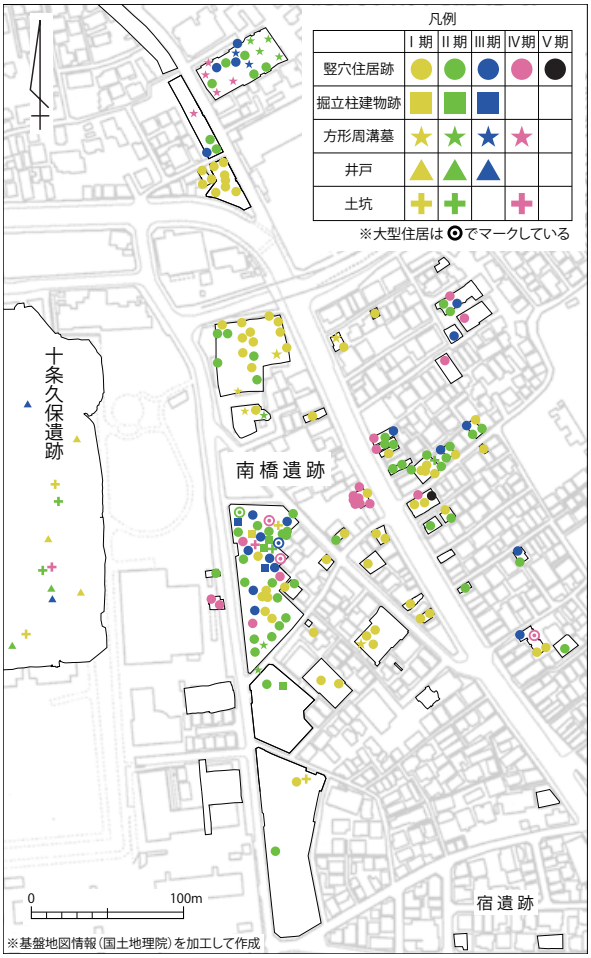


図３　南橋遺跡のⅠ～Ⅴ期の遺構色分け図

れないことから、南橋遺跡は大型住居を核に発展し、集団関係に大きな変化がないまま、緩やかに衰退したと推測できます。南橋遺跡の規模は、南北の直線距離が約 480m、東西の直線距離が約 210m を測ります。発展期のⅡ期の面積は約 91,850㎡に復元され、現在はそのうちの約２割（約 16,880㎡）の調査が終了しています。Ⅱ期と明確に分かる住居跡は現在 53 軒確認されており、未調査範囲を含めてⅡ期の住居跡は 80 ～ 90 軒あると想定されます。開発の多い東京都区部で集落の規模が明らかになることは珍しく、貴重な事例です。

遺跡から分かること

このように遺跡から発見される遺構や遺物を詳細に観察すると、遺跡の時代や時期による変遷が捉えられ、人々の動きを窺い知ることができます。それは、地域の歴史の解明に繋がり、私は今回の研究で地域の歴史を知る面白さを改めて実感しました。

今後は荒川下流域右岸にスポットを当て、当該期の集落の様相を検討したいと考えています。

（当センターの研究論集 38・39（2024・25 年刊行）に今回の研究の詳細を掲載しています。）

東京都埋蔵文化財センター

7～9月のイベント

こんにちは！
今年度から
PR係になった
ナンデくんです！

とまいぶんPR係
ナンデくん

自由研究にも
ぴったりな
夏のイベントを
紹介するよ！

親子 縄文土器づくり

本物の縄文土器を見ながら
そっくりに作れるかな？

お子さま考古学教室

弓矢体験やクルミ割り体験などで
楽しみながら考古学を学ぼう！

親子 縄文の布作り

縄文時代の布ってどんなもの？
コースター作りに挑戦しよう！

イベント一覧

展示解説 ／ 庭園 ／ 体験
講演会・発表会・上映会

大人向け：中学生以上
親子等　：小学４年生と保護者
低年齢向け：幼児～小学生低学年と保護者

日時(予定)				行事名	対象	人数	申込	締切
7月	23日（水）	9:45 ～ 16:00		親子 縄文土器作り ※8/16の野焼きにも必ずご参加ください	親子等	12組(24名)	事前申込	7月9日
	24日（木）	9:45 ～ 12:00		親子 勾玉作り(1)	親子等	12組(24名)	事前申込	7月10日
		13:30 ～ 15:45		親子 勾玉作り(2)	親子等	12組(24名)	事前申込	7月10日
	29日（火）	13:30 ～ 15:45		親子で縄文の森あそび	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月15日
	31日（木）	9:45 ～ 12:00		お子さま勾玉作り(1)	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月17日
		13:30 ～ 15:45		お子さま勾玉作り(2)	低年齢向け	12組(24名)	事前申込	7月17日
8月	9日（土）	9:45 ～ 12:00		親子 火おこし道具作り	親子等	12組(24名)	事前申込	7月24日
		13:30 ～ 15:45		親子 縄文レリーフ作り	親子等	12組(24名)	事前申込	7月24日
	16日（土）	9:45 ～ 13:30		縄文土器の野焼き(1)	どなたでも	見学自由	-	-
	18日（月）	13:30 ～ 15:45		親子 縄文の布作り	親子等	12組(24名)	事前申込	8月4日
	21日（木）	9:45 ～ 12:00		お子さま考古学教室(1) ※(1)～(4)は各回とも同じ内容です	低年齢向け	-	当日受付	-
		13:30 ～ 15:45		お子さま考古学教室(2)	低年齢向け	-	当日受付	-
	22日（金）	9:45 ～ 12:00		お子さま考古学教室(3)	低年齢向け	-	当日受付	-
		13:30 ～ 15:45		お子さま考古学教室(4)	低年齢向け	-	当日受付	-
	24日（日）	9:45 ～ 12:00		親子 勾玉作り(3)	親子等	12組(24名)	事前申込	8月7日
		13:30 ～ 15:45		親子 勾玉作り(4)	親子等	12組(24名)	事前申込	8月7日
	26日（火）	13:30 ～ 15:30		親子で縄文土器と友達になろう!	親子等	10組(20名)	事前申込	8月12日
	30日（土） 31日（日）	9:45 ～ 16:00		縄文土器作り ※2日間かけて1つの土器をつくります ※9/20の野焼きにも必ずご参加ください	大人向け	12名	事前申込	8月14日
9月	10日（水）	10:00 ～ 15:00		古代の糸作り(2)	大人向け	12名	事前申込	8月27日
	20日（土）	9:45 ～ 13:30		縄文土器の野焼き(2)	どなたでも	見学自由	-	-
		13:30 ～ 14:30		学芸員ギャラリートーク「大昔の多摩を語る」(1) ※常設展示解説	どなたでも	10名程度	当日受付	-

●「事前申込」はWebの申込みフォームまたは往復はがきでの申込となります。
●参加可能な年齢等、募集の詳細は申込締切日の約一ヶ月前に当センターホームページ「イベント・教室」ページ内に掲載したします。お申し込み前にホームページをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

1 Web申込
ホームページの「イベント・教室」ページ(https://www.tomaibun.jp/event/index.html)からお申込みください。

2 往復ハガキでの申込
・「どなたでも」「大人向け」の行事では1人につき1枚、「親子等」「低年齢向け」の行事では1組(2名まで)につき1枚の往復はがきが必要です。
・「行事名・住所・氏名・年齢・電話番号」をご記入の上、〒206-0033 多摩市落合1-14-2 東京都埋蔵文化財センター ○○○(行事名)係宛にお申込みください。

●いずれの行事も**応募者多数の場合は抽選**となります。
●ご記入いただいた個人情報は、該当事業実施の目的のみに利用します。利用目的に同意の上、お申し込みください。
●記録・広報活動への利用のため、イベントの模様を撮影いたします。撮影した写真の公開時には、ぼかし処理など顔が判別できなくなるような処理を適宜行いますが、ご承知おきの上、お申し込みください。

すべて無料だよ！

※今号の表紙：遺跡から出土した煉瓦（北区　道合遺跡・赤羽上ノ台遺跡出土、縮尺１/２）

たまのよこやま 141　　2025 年 6 月 30 日発行
東京都埋蔵文化財センター　〒 206-0033 多摩市落合 1-14-2　TEL 042-373-5296　https://www.tomaibun.jp/